


北欧の絵本  
水沼あやか



ハンス・クリスチャン・アンデルセン  
(Hans Christian Andersen)

- ・生年月日  
1805年4月2日  
1875年8月4日  
肝臓癌のため死去
- ・出身地  
デンマーク  
フェン島・オーデンセ



トーベ・マリカ・ヤンソン  
(Tove Marika Jansson)

- ・生年月日  
1914年8月9日  
2001年7月27日死去
- ・出身地  
フィンランド  
ヘルシンキ
- ・職業  
画家、小説家



トーベ・マリカ・ヤンソン  
(Tove Marika Jansson)

フィンランド人彫刻家の父ヴィクトル・ヤンソンとスウェーデン人画家の母シグネ・ハンマルスデンの長女(兄弟は弟が2人)として生まれ、自然に絵を覚えた。  
15歳で政治風刺を中心とする雑誌『ガムル』の挿絵を描き始める。  
16歳から、ストックホルムの工芸専門学校、ヘルシンキの芸術大学、パリの美術学校などへ通った。  
代表的なキャラクターのムーミン・トロールは、小説としての『ムーミン』シリーズの執筆(1939年、発表は1945年)よりも早く1944年頃から『ガムル』誌に挿絵として登場する。  
1966年に国際アンデルセン賞作家賞、1984年にはフィンランド国民文学賞を受賞している。

ハンス・クリスチャン・アンデルセン  
(Hans Christian Andersen)

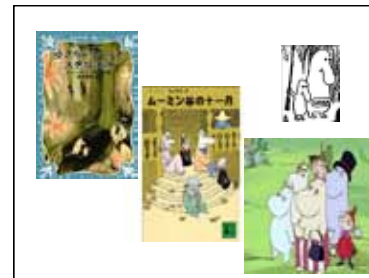
アンデルセンは、両親の愛と母親の盲信によって育てられ、若い頃から想像力を発揮した。  
11歳の時、靴職人の父親が亡くなると自分の進路を決めなければならなくなり、学校を中退する。  
彼は役者になろうとし、14歳でコペンハーゲンに行ったが、役者になることには失敗し、その後も数々の挫折をした。

ハンス・クリスチャン・アンデルセン  
(Hans Christian Andersen)

24歳の時、『ホルメン運河からアマゲル島東端までの徒歩旅行』を自費で出版しドイツ語版も出るほどの好評を得た。  
30歳の時には最初の小説『即興詩人』を出版する。この作品は、発表当時かなりの反響を呼び、ヨーロッパ各国で翻訳出版されてアンデルセンの出世作となった。  
現在は森鷗外が翻訳をしたが、日本以外で見る者はほとんどいない。

トーベ・マリカ・ヤンソン  
(Tove Marika Jansson)

『小さなトロールと大洪水』(1945)を著して挿絵画家および作家としてデビュー。以後幻想的な「ムーミン物語」を8冊発表。70年に発表した『ムーミン谷の11月』が、シリーズ最後の作品となった。フィンランドの海辺を舞台に、孤独、愛情、理解、怒りをやさしく語り、広く世界に真価を認められる。  
ムーミン・シリーズは30以上の言語に翻訳され、日本では発行部数1000万部を超えたといわれた。また、69年以來テレビアニメ化され、90～91年のアニメは本国フィンランドでもブームを巻き起こしたという。



ハンス・クリスチャン・アンデルセン  
(Hans Christian Andersen)

その後も死ぬまでの間に多くのお話を発表しつづけた。初期の作品では主人公が死ぬ結末を迎える物も多く、若き日の彼が死ぬ以外に幸せになる術を持たない貧困層への嘆きと、それに対して無関心を強い続ける社会への嘆きを童話という媒体を通して訴え続けていた。  
しかし、この傾向は晩年になると、死以外に幸せになる術がある事を作中に書き出していくようになった。  
また過度の心配性であったらしく、外出時は非常時に遺物の意からすぐに逃げ出せるように必ずロープを持ち歩いた。  
さらに、眠っている間に死んだと勘違いされて、埋葬されてしまった男の噂話を聞いて以来、眠るときは枕元に「死んでません」という書き置きを残していた。

アンデルセンの代表作品

- ・裸の王様
- ・みにくいアヒルの子
- ・人魚姫
- ・親指姫
- ・マッチ売りの少女
- ・雪の女王
- ・白鳥の王子
- ・赤い靴
- ・しっかり者のスズの兵隊
- ・小夜鳴鳥
- ・モスの木
- ・エンドウ豆の上に食べたお姫様
- ・パンをふんだ娘
- ・蝶
- ・沼の王の城
- ・とび出した五つのお豆

アストリッド・リンドグレン  
(Astrid Lindgren)

- ・生年月日  
1907年11月14日  
2002年1月28日死去
- ・出身地  
スウェーデン南東部  
ヴィンメルビュー
- ・職業  
児童書編集者  
児童文学作家



アストリッド・リンドグレン  
(Astrid Lindgren)

幼少の頃、小さな牧場で家族と共に過ごした経験が作品の下敷きになっている。  
十代の時、晩年のエレン・ケイ(スウェーデンの社会思想家)に会い、影響を受けたという。その後、教師や事務員をする傍ら執筆活動を始め、1945年、『長くつ下のピッピ』を執筆。これが彼女の世界的な名声の出発点となった。もともとこれは、彼女の小さかった娘カーリンのために考え出されたものだという。

アストリッド・リンドグレン  
(Astrid Lindgren)

彼女の作品は、スウェーデンの豊かな自然に囲まれた子供達の姿を描いたものから、少年探偵が活躍する推理もの、幻想的なファンタジーなど幅広く、『長くつ下のピッピ』『やかまし村の子どもたち』『ロッタちゃん』などはテレビ・映画化もされている。  
『長くつ下のピッピ』シリーズは全世界で1億3000万部以上を売った。

リンドグレンの作品



参考文献

- <http://www.ehon.info/>
- [Amazon.co.jp](http://Amazon.co.jp)
- Wikipedia
- Google 画像検索
- 北欧の児童文学—授業用プリント

アルフ・プリヨイセン  
(Alf Prøysen)

- ・生年月日  
1914年7月23日  
1970年11月23日死去
- ・出身地  
ノルウェー  
ヘッドマルク
- ・職業  
児童作家、歌手



アルフ・プリヨイセン  
(Alf Prøysen)

3人兄弟の末っ子として生まれる。家庭が貧しく、幼少時から農場で働く。学校へは行かなかったものの、空想力や歌唱力に富み、農村の祭などで自作の歌を披露し喜ばれた。  
彼の代表作となる「スプーンおばさん」シリーズは、1958年にスウェーデン語版が、翌年ノルウェー語版が出版されたのが始まりである。これは世界18言語に訳され、やはり映画化された。日本では1983年4月に、アニメがNHKにより放映された。

スプーンおばさん



三びきのやぎとがらがらどん

ノルウェーの昔話  
文 アンビヨルセンとモー  
絵 マーシャ・ブラウン

日本での出版は1965年。  
以来ベストセラーの座を  
保っている。

